

増ニホ 2016

議論(2日目)

2016.7.6

☆今後の運用スキーム

運用変化のステップ

AY(2016) ① KWFC

AY(2017) ② +Tomo-ePM

AY(2018) ③ Tomo-e

AY(2019) ④

AY(2020) ⑤

〈研究〉
general purpose
共同利用
↓
〈教育〉
本学
実習

共同研究
大学
実習

共同研究
部分
実習
大学
実習

No filter
重力波 Fup
超新星 S

filter化
超新星 S
各種サーベイ

共有?

☆今後の観測所運用 ~制約とホークニト~

◎ 中小望遠鏡施設の意味

- 先鋭的のプロジェクト (ハイリスク・ハイリターン)
- テストベッド [プロジェクト, 装置, 研究者養成]

◎ 軍営資金難 ... どころも大変...

- 軍用業務の整理/変更 [今年度から毎年]
- 観測所は望遠鏡・装置の軍用に特化
 - 数年後にはほぼ自動運転?
- 研究対象の特化 [家さんコメントの通り]
 - ? 実在天体中心 → "ただし" サイエンスは流動することに注意

④ データ解析の本質的進化の重要性

— 東大下巻として?

→ astrostatics

2016 秋天文学会
企画セッション
(植村、池田、本向)
～ぜひご参加を～

— 解析インフラの整備

CPU & HDD の置き場所 (1/10 土)

→ 観測所に置くしかない? (酒向)
[外へのネットワークが早くない]

— 「実験計画書」としての天文応用の重要性
ぜひ早くはるる初期段階から相談を
(池田 土)